

# 札幌市のベッドタウン



②平成5年



①昭和41年

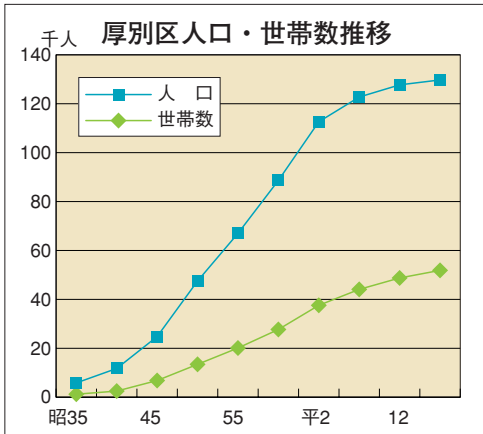
3枚の写真は、ひばりが丘団地からもみじ台方面に向かって撮影されています。丸で囲まれた旧馬場農場のサイロを目印に、街並みの移り変わりを見てみましょう。

手前から中央がサイロのあるひばりが丘団地、その奥に副都心、右側を縦に伸びている道路が南郷通です。この道路の右に青葉町、②・③では右奥にもみじ台団地も見えます。

①では、完成したばかりのひばりが丘団地と造成が進む青葉町のほかは、住宅がまばらですが、②では全域に整然と立ち並んでいます。②、③では、ひばりが丘や青葉町で、市営住宅が高層住宅に建て替えられていく様子もうかがえます。



③平成16年



(資料 平成15年版札幌市統計書)

昭和三十三年から始まったひばりが丘団地の造成が進む中、高度経済成長が札幌市への人口集中に拍車を掛けます。これに対応するため市は、昭和三十七年に下野幌第一団地(現青葉町)、同四十二年に下野幌第二団地(現副都心)、同四十三年に下野幌第三団地(現もみじ台)と、大規模住宅団地の造成に着手しました。これらは、宅地造成だけでなく、そこに住む人たちの生活環境を考え、学校、公園などの公施設や商業施設の建設などを計画に織り込み、当時の最先端の街づくりの思想を導入していました。

土地区画整理事業や市と民間が協力する宅地開発なども行われ、近代的で計画的な住宅地帯が形成されました。最近では、初期の団地造成により建設された市営住宅で老朽化が目立つようになり、建て替えが進められています。平成五年にひばりが丘が完成し、同十一年には、青葉町で同二十五年の完成を目指して工事が始まりました。



ふれあい広場が整備され、新しくホテルや事業所が開業するとともに、平成16年10月には温水プールが移転開館しました(平成15年)



平成元年11月、白石区から分区分厚別区誕生。同2年には、区のシンボルマークが制定されました(平成4年)



昭和53年に地下鉄東西線の白石・厚別間工事が始まり、同57年3月に開通しました(昭和54年)